

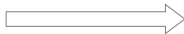
## 国際会計基準 (IFRS) と日本基準との差異について

本日発表のIFRSに基づく2017年3月期決算に関し、日本基準にて開示していた数値との主な差異は、以下のとおりです。

単位：億円


### 1. 連結損益計算書

#### 1) 売上高

日本基準		IFRS
22,504	<u>△ 5,753</u>	16,751

主な差異：有償支給取引の純額表示  $\Delta$  5,619 ※1


#### 2) 営業利益

日本基準		IFRS
1,229	<u>44</u>	1,273

主な差異：のれんの償却停止 75 ※2  
償却方法変更  $\Delta$  17 ※3  
表示組替  $\Delta$  23

### 2. 連結財政状態計算書

#### 1) 総資産

日本基準		IFRS
44,286	<u>1,296</u>	45,582

主な差異：非上場株式の公正価値測定 577 ※4  
償却方法変更 343 ※3  
のれんの償却停止 147 ※2  
開発資産計上 120 ※5

※1 日本基準では有償支給元への売り戻し時に売上高と売上原価を計上しておりましたが、IFRSでは加工代相当額のみを純額で収益として認識しております。

※2 日本基準では、のれんは原則として20年以内の期間で均等償却しておりましたが、IFRSでは移行日以後償却を行わず、毎年減損テストを実施しております。

※3 有形固定資産の減価償却方法について、日本基準では主として定率法を採用しておりましたが、IFRSでは定額法を採用しております。また、一部耐用年数の見直しを行っております。

※4 日本基準では取得原価を基礎として計上し、発行会社の財政状態の悪化に応じて減損処理を行っておりましたが、IFRSではその他の包括利益を通じて公正価値で測定しております。

※5 日本基準では、研究および開発における支出は発生時にすべて費用処理しておりましたが、IFRSでは、資産計上の要件を満たす自社開発の研究開発費については、無形資産として認識し、償却しております。

以上